

日本物理学会物理学史資料委員会ニュース

No. 8

編集・発行 日本物理学会物理学史資料委員会

2024 年 9 月 24 日

一般社団法人 日本物理学会 物理学史資料委員会では、年3～4 回の委員会議において、主として日本国内の物理学史資料の保管・収集などに関して情報交換を行っています。『日本物理学会物理学史資料委員会ニュース』は、その情報の一部をウェブ上で紹介するために刊行されています。

正確な内容をお届けするよう心がけますが、同委員会の委員の報告をもとに速報性を重視した構成とするため、情報が十分でない可能性があります。詳細については、関連する機関等に別途ご確認いただけますようお願い申し上げます。

《目次》

- ノーベル賞の選考資料の利用について
- 理化学研究所図書館のシュワルツ文庫とルンゲ文庫
- 蒲生秀也氏の書簡資料について (原稿受付順)

● ノーベル賞の選考資料の利用について

ノーベル賞の選考資料は受賞から 50 年を経たものについては、歴史研究に使用される場合は申請が許可されれば閲覧が可能であるが

(<https://www.nobelprize.org/organization/statutes-of-the-nobel-foundation/#par10>)、

物理学賞・化学賞に関しては、受賞者の存命中は公開されない。また、選考に際して提出された報告書等は、執筆者が存命である場合、その人物の許可を得なければ閲覧できない。

(<https://www.nobelprize.org/organization/statutes-for-the-prizes-awarded-by-the-royal-academy-of-sciences/>の§8)

前者の事例としては、1957年に物理学賞を受賞した李政道と楊振寧が該当するが、1973年に物理学賞を受賞した、ジョセフソン (Brian David Josephson)、イェーヴァー (Ivar Giaever)、江崎玲於奈の場合も同様である。ノーベル財団のウェブサイトには過去の推薦について検索できるページがあるが

(https://www.nobelprize.org/nomination/archive/show_people.php?id=6097)、

ここからも上述の受賞者に関わるデータは削除されており、利用に際して注意が必要である。

(岡本拓司委員)

● 理化学研究所図書館のシュワルツ文庫とルンゲ文庫

理化学研究所の図書館(埼玉県和光市)には、ドイツの数学者シュワルツ (Karl Hermann Amandus Schwarz, 1843-1921) ならびにルンゲ (Carl David Tolmé Runge, 1856-1927) の旧蔵書が保管されている。いずれも数百冊からなるコレクションで、19世紀から20世紀初頭にかけての数学・物理学書が中心と見られる。当該書籍には「シュワルツ文庫」「ルンゲ文庫」の印が押されている。

『理化学研究所百年史』第I編第2部第6章「図書館の100年」によれば、この二つのコレクションは1927(昭和2)年に購入されたものである。特にルンゲの旧蔵書の購入にあたっては財団法人和田薫幸会から寄付を受けており、一部の書籍には、財団創立者である和田豊治(1861-1924)の写真を載せた由来書きが貼付されている。和田は理研発足時の理事で評議員でもあった実業家である。

2024年8月現在、この二つのコレクションは独立に管理されているわけではなく、旧シュワルツ文庫と旧ルンゲ文庫の書籍が一般の蔵書に交じって保管されている。旧ルンゲ文庫に含まれるニュートンの『光学』(ラテン語版、1706年)や『プリンキピア』(通称イエズス会版、1760年)など、一部は稀覯書として別置されているが、大部分は開架書庫にあつて、一般利用者が自由に手に取ることが可能である。

(有賀暢迪委員)

● 蒲生秀也氏の書簡資料について

蒲生秀也(1924-2006)は情報理論、光学、量子エレクトロニクス等を専門とした日本の

物理学者であり、東京大学で博士号を取得したのち助手を務め、次いで IBM、ロチェスター大学、カリフォルニア大学アーバイン校に勤務した。2024 年に、ご遺族から、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻の辻直人准教授に、蒲生が残した書簡（来簡）の取扱いについて相談があり、辻准教授からさらに物理学史資料委員会への連絡があった。これを受けて、2024 年 8 月 6 日に岡本が辻准教授の研究室に伺い、書簡一式を受け取った。

書簡の送り手は、蒲生が生前に交流のあった、チャールズ・タウンズ（レーザー、レーザーの原理の確立）、ガーボル・デーネシュ（ホログラフィー）、リチャード・トゥイス（ハンベリー・ブラウン・トゥイス干渉計）、茅誠司（東京大学総長）、岡小天（バイオレオロジー）などであり、記された時期は主に 1960 年代である。一部はコピーであり、分量は全体で 20～30 件程度である。

現在、岡本が簡易目録を作成中である。

（岡本拓司委員）